

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 12月9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2670900717
法人名	有限会社 マコト
事業所名	グループホーム まこと
所在地	〒612-8297 京都市伏見区横大路貴船8-2 (電話) 075-604-6173

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成21年11月24日
評価確定日	平成21年12月24日

## 【情報提供票より】(平成 21 年 10 月 1 日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2 人, 常勤換算	6.05人

## (2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷 金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1ヶ月当たり		40,000 円	

## (4)利用者の概要( 10 月 1 日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名	
要介護1	0 名	要介護2	2 名			
要介護3	3 名	要介護4	1 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	79.5 歳	最低	74 歳	最高	90 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	蘇生会病院、吉井クリニック
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街に建つ木造平屋建てで、周囲に調和した家庭的な雰囲気のグループホームです。「それまで通りの普通のくらしを提供していく」という理念のもと、あくまでも「家」であることにこだわりを持ち、ホーム長と職員、利用者それぞれが信頼関係を築いています。日々の散歩やドライブ、買い物など外出ケアを多く取り入れ、今年初めての試みとして1泊旅行も実施しました。地域との関わりにも力を入れており、自治会や地域・区社協、ボランティア等と協力して、5ヵ年計画で地域の独居老人の掘り起こしの一環としてホームでの昼食会実施や自宅訪問、自治会の催しへの積極的な参加等、「顔の見える関係作り」をしています。入居者は大変明るく、笑い声や歌声が響き、活気あふれるホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価において課題であった記録のとり方について、職員会議などを開催し、パソコンを使つての記録方法を取り入れました。パソコン入力の方法に工夫すぐにデータを確認できるように改善しています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、ホーム長や職員が話し合って作成しており、全員で取り組みました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はおおむね2カ月に一度開催し、ホーム長、家族会代表、地域包括支援センター職員、地域の代表が出席し、地域との協力や外部評価、イベントの実施等について話し合っています。自治会や学区社協等と協力し、地域福祉推進委員として町内訪問を行うなど、地域での関係作りに取り組んでいます。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者は近隣の方なので、ホーム長が毎月、家族の家を訪問し、請求書や写真等を手渡しするようにしています。家族との関係を大変大事にしており、訪問時に利用者の日々の暮らしぶり等を報告し、家族からいつでも意見等が言いやすい関係作りに努めています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所の利用者が多いことで日々の散歩で顔なじみになったり、自治会との交流も深く、自治会の催し(運動会、祭り、小学校でのふれあい教室等)への参加や、自治会や地域・区社協との協力の元ホームで毎週昼食会を開き、地域のお年寄りに参加を得ています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に、ごく普通の「家」であることにこだわり、「それまで通りの普通の暮らしを提供していく」という理念をホーム長が思いを込めて作りました。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所に掲示し、職員は日々の業務や暮らしぶりを振り返り、理念を実践できているか話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会との交流が深く、自治会の催し(運動会、祭り、小学校でのふれあい教室等)に積極的に参加している。また、自治会や地域・区社協等と協力し、ホームで毎週昼食会を実施し、地域のお年寄りに参加していたっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価後に職員会議等を実施して、改善策を話し合い、前回評価の課題であった記録の取り方については、パソコンでの管理を取り入れるなど改善に取り組んでいる。自己評価はホーム長や職員で話し合って作成している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に一度、家族会代表、地域包括支援センター職員、地域代表、ホーム長が参加して開催されている。地域との協力やイベント、外部評価などについて話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや近隣地域などの開催する運営会議への参加や、伏見区介護サービス事業者連絡会の委員として、事業所間の連絡・意見交換を密に取組んでいる。また、地域福祉推進委員として、町内の老人宅を訪問し、「顔が見える関係作り」に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム長が毎月家庭を訪問し、入居者の暮らしぶりなどを報告するとともに、請求書や写真、療養計画書等を家族に手渡ししている。	○	現在は家族に毎月会って話をしているので、ホーム便りなどはないが、今後は入居者の暮らしぶりや、ホームのイベントやホームの取り組みなどを掲載したホーム便りの作成も検討されてはいかがでしょうか。ホームでは地域に対して等、いろいろな取り組みをされているので、直接話が聞けない家族や、運営推進会議等にも配布するなどの用途も考えられます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との関わりを大変重要視しており、毎月ホーム長が家庭を訪問して話を聞くようにして、家族からの意見や相談などを話しやすい環境を整えている。また、直接言いにくいことなどがあれば、社協の相談窓口や外部評価のアンケートなど第三者を通じて意見を反映させる仕組みになっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員はなるべく近隣から採用にようにしており、仕事を離れての食事会等職員が息抜きできる機会も多く設けています。現場においても職員が働きやすい環境作りに取り組んでいるため、ほとんど職員の退職がない。その結果、職員と入居者は信頼関係が築かれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内でのスキルアップ研修や、外部研修の受講を促したり、他のグループホームや老人健康施設等の施設見学(1日体験実習)を年に4~5回実施している。	○	外部研修や施設の体験学習などに参加した時には、全職員が共有できるように資料の回覧や研修の記録を残すことが望まれます。また、伝達研修の実施など、職員のレベルアップにつながる取り組みを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長が区内介護サービス事業者連絡会の委員として、他事業所と連絡を取り合い意見交換を密にしている。また、他施設の1日実習見学も年に4~5回実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地域の自治会や地域包括支援センターと連絡を取り、近隣の方が入居できるようにしており、馴染んだ場所でサービスを利用することができている。また、初回の面接時は本人が安心して話しやすいよう自宅で行い、見学や昼食サービスを利用してホームの雰囲気を見てもらい入居後2週間は利用者の好きな献立などを取り入れながら馴染んでもらえるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と入居者は馴染みの関係作りができており、共同生活の中で、入居者から昔ながらの地域の事や技術を聞いたりするなど、一方的な介護ではなく信頼関係が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを利用し、本人や家族の意向や希望の把握に努めている。得られた情報は職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を取り入れ、本人や家族の意向や希望を聞き、モニタリングやカンファレンスで話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに計画の達成度や評価等を確認し、介護計画の見直しを行っている。モニタリングシートやカンファレンスシートはパソコン管理されており、いつでも全職員がすぐに確認できるようになっている。また、必要があればホーム医の意見も取り入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助、なじみの理美容院の使用、お墓参りなど、本人や家族の要望については基本的にはすべて実現できるよう取り組んでいる。家族と連絡を密にしており、要望などが聞きやすい環境作りをしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までのかかりつけ医を継続できることを説明している。往診医は週に1回あり24時間連携が取れており訪問マッサージを週に2回取り入れ、症状に効果をあげている。また、馴染みの病院や歯科が必要になれば通院ができるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状ではホームでのターミナル介護は限界があるため、重度化した場合は退所となる場合が多いことから、入居時にホームの方針を説明し、早い段階から医療機関や療養型施設への入院・入所を踏まえ、家族や施設と連携しながら、次の移転先が見つかるまで、負担の少ない中での方向を検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	マニュアルー辺倒の対応のみでなく、本人が気持ちよく生活できるよう、家族にも相談しながら、入居者個々に合わせた対応を心掛けている。ホーム長は職員の対応の仕方にも気を配り、入居者の誇りや尊厳を振り返りながらケアに当たっている。個人情報の記録物は事務所の鍵がかかるロッカーに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々のペースを尊重し、その日その日で業務やスケジュールに追われることなく、あくまでも「家で過ごす」ことを念頭に置き、自由に過ごしていただいている。外出も毎日のように行っているが、外出したい人、ホームに残っていたい人など入居者の希望にあわせて職員配置を考えるなど、対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝の新聞広告やちらしを見ながら、夕食のメニューを考え週に3回は入居者も一緒に買い物に行っている。配膳や後片付けは全員で行い、温かい食事を職員も同じテーブルで楽しくいただいている。嫌いなメニューの場合には代替品を提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴日は決まっているが、必要に応じて随時入浴できるようにしている。希望があれば毎日の入浴も検討している。また、拒否傾向の利用者には、言葉掛けなどで気持ちよく入れる様に工夫している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できることは自分でやっていただくを理念として「しすぎない介護」を目指している。配膳や後片付けなど、特に当番製で無理強いすることなく、職員による見守りや気配りで、全員にできることをやらせている。また、ホームでの楽しみとして歌を歌ったり、日々の外出やドライブで喜んでもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出ケアに力を入れており、日々の外出に加えて、週に3回程度の食料品の買出し、観光地やお寺などへのドライブなど、頻繁に外出している。また今年初めての試みとして、1泊旅行も実施し、利用者や家族にも喜んでいただいている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は玄関に鈴をつけるなどしていたが、現在は夜間以外は施錠していない。職員が常に入居者の居場所を確認して、自由な暮らしに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの下、年に1回の避難訓練やホーム主催の火災・避難訓練を行っている。自治会とも協力して地域からも参加していただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は毎日業務日誌に記録しており、口頭での引き継ぎも合わせて適切な対応をしている。また、献立表も記録し栄養が偏らないように配慮し、病状に応じて医師からのアドバイスをもらい、2か月ごとに体重測定を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の大きなクリスマスツリーが飾られ、リビングにも手作りの季節の飾りや外出時の写真が適度にきれいに飾られている。花壇を設け入居者が季節感を感じながら居心地よく過ごせる空間作りが来ている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、馴染みの物を持ち込んでいる。ベッド、タンスなどを設置し、居心地よく過ごせる空間作りが来ている。部屋の入り口にはのれんや手作りの表札などがあり、温かみを感じられる。		